

学校教育目標	人・まち・自然に進んでかかわり、自ら学びを深め、共に生きる素晴らしさを感じ合うことができる子を育てます。 【知】探究心をもって学びを深め、主体的・協働的に課題解決しながら、表現力を高める子を育てます。 【徳】素直な心を持ち、互いの良さや違いを認め、相手の立場や気持ちを思いやる子を育てます。 【体】自他の生命を大切に、自らの生活を見つめ、進んで健康な体づくりをする子を育てます。 【公】地域の一員として、人や自然と積極的に関わり、自分たちのまちに愛着がもてる子を育てます。 【開】国際社会に視野を広げ、社会の変化にしなやかに対応し、進んでコミュニケーションを図る子を育てます。				
	創立 41 周年	学校長 地主 佐和子	副校長 足立 憲昭	2 学期制	一般学級: 9 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 222 人 主な関係校: 日限山中学校 日限山小学校 舞岡小学校 舞岡中学校 舞岡高等学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的に学び、探究する力> <協働して課題解決する力> <思いや考えを深め、伝え合う力>	日限山中学校 南舞岡小学校 日限山小学校	探究する心を醸成し、豊かな人間性と創造性を備えた、横浜の未来を担う子ども ・年間3回の教職員研修会の中で、各教科等域における、「探究型の学習展開」をテーマとした、授業研究会を実施(11月)。 ・人権教育推進計画に基づく人権意識の向上を目指した授業公開を実施(10月)。 ・各校6年生が、中学校体育祭、部活動に参加。 ・児童生徒交流日に小6児童による授業見学を実施(10月)。

<b>中期取組目標</b> ○人・まち・自然とのかかわりを一層深めながら、一人ひとりの子どもが主体的・協働的に学びを形成する学校を目指します。 ・子どもが学習の楽しさを実感できるように、授業改善の活性化を進めます。 ・たてわり活動を通して、思いやりのある心や健康な体が育まれるようにします。 ・自然や人と様々な活動を通してかかわりながら、まちを愛する心を育てます。 ・保護者や地域住民、関係機関の方々と連携を図った教育活動を実践し、社会に開かれた教育課程を実現します。
---

重点取組分野	具体的取組
<b>生きてはたらく知</b> 担当 学力研修部	①重点研の研究主題を「子どもの主体的・対話的な学びを促し、表現活動の活性化を図る」とし、生活科・総合的な学習を中心に授業研究に取り組み、3つの資質・能力の育成を目指していく。②感染症対策を行い工夫しながら、子どもたちの実態を踏まえ、個に応じたカリキュラムマネジメントを実施する。
<b>豊かな心</b> 担当 心の教育部	①対話的学習や活動の振り返りを授業に積極的に取り入れ、子どもが多様性を受け入れたり自分を見つめたりする機会を増やす。②体験的活動や多様な他者との活動を通し、積極的に人と関わろうとする態度、自己肯定感、感謝の気持ちを育てる。
<b>健やかな体</b> 担当 安全体力特色部	①なわとび運動の全校的な取組に重点を置いて、引き続き体力向上を図る。②運動会に向けて体力向上1校1実践運動を継続する。③児童の体力の実態を保護者と共有し、家庭と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。学校保健委員会の様子も保健だよりなどで伝えていく。
<b>地域連携</b> 担当 地域連携部	コロナ禍による影響を鑑みながら、臨機応変に対応をしていく一年が予想される。舞岡公園との連携は5年生の田んぼ活動を継続していく。地域防災訓練も感染症の状況次第となる。日限山中ブロックで行う活動については、コロナ収束後に開催を予定している。
<b>指導力向上</b> 担当 学力研修部	①全教職員で南舞岡スタンダードを活用し、情報交換や研修の場を通して、児童指導力、学級経営力を高める。②目的が明確化された研修や授業を素材とした授業研究を行うことで、教職員の授業力向上を目指す。
<b>特別支援・福祉支援</b> 担当 心の教育部	①全教職員で、児童の共通理解を行い、個々のニーズに応じた有効な支援をする。②「個別の教育支援計画・指導計画」の内容を、教職員、保護者、SSW、管理職が共有し、児童本人の思いや願いを尊重しながら、適切な支援を行う。③特別支援教育、福祉支援について職員研修を行う。
<b>児童指導</b> 担当 心の教育部	①「生活スタンダード」、「教師用スタンダード」の共通理解を定期的に図り、児童が安心して学校生活を送れるようにする。②児童相談所や警察などと連携しながら、迅速かつ実効性のある児童指導を行う。③校内や地域の人との挨拶の指導を通して、人と積極的に関わろうとする態度を育てる。
担当 c8	
<b>いじめへの対応</b> 担当 心の教育部	①いじめ防止対策委員会等で認知された案件について全教職員で共有し、早期対応に努める。②人権週間の取組や道徳の授業等を通して、いじめの未然防止を図る。③年3回児童へのアンケートや年4回の教育相談日により、児童の困り感を見逃さず、安心できる学級づくりをする。
<b>人材育成・組織運営(働き方改革)</b> 担当 管理職・教務部	①引き続き、職員間の効率的な情報共有化を図り、会議の短時間化を目指す。メール配信機能を活用し、学校評価アンケートや各種申し込みを行う。②主幹会では、学校運営に対する課題意識を高め、職員一体となって課題解決に臨む。③職員それぞれのステージによる目標を設定を行い、各自研鑽に努める。